

編 集 後 記

アジア連帯委員会
事務局長 山崎 高明

日毎に日照時間が長くなり確実に春の訪れを感じてはいるものの、日本海側を中心に豪雪が続いています。この場をお借りしてお見舞い申し上げます。帰国から3週間強が経過、30度を超えていた現地を懐かしみ、グループLINE上の500枚を超えるアルバムを眺めては、ラオスロスに陥っています。今回の視察も、チームワーク良く各自が役割を全うしていただいたおかげで、充実したものとなりました。10名の個性豊かなメンバー、ご派遣をいただいた組織、そして、日本人の心に寄り添える素晴らしいコーディネーターで私の親友（画像の右チャオさん 左ヌーソンさん）に感謝申し上げます。

2025年ワーキング・スタディ・ツアーは、私自身3回目となりますが、一昨年は、鈴木前副会長のサポート役として、準備から帰国までバタバタと過ぎ去った感があります。昨年は、全て一人で運営したこともあり必要以上に気を遣いながらも、ラオス渡航4度目でもあり多少の余裕をもって任に当たることができました。そして、今年は、11月に着任した砂長事務局次長に今後を引き継ぐ意思をもって、細かい部分もお互い確認し合いながら準備を進めました。新たな視点での試みとして、メンバーからの事前質問への回答や、現地情報等をグループLINEで共有できたのは、安心感と一体感が生まれたと自負しています。

事務局長を拝命し3年目となり、年間を通じての取り組みには徐々に慣れてきた一方で、いくつかの課題にも直面しています。そのうちのひとつが『当面の支援はラオスに執着したほうが良いのか、それとも、支援国を拡大した方が良いのか』です。昨年3月開催の第27回評議員会において、36年にわたりCSAの基幹事業として継続実施してきた中古衣類を送る運動の終了を確認しました。現在は、ラオスの小学校建設・補修、サンティパーブ高校寮への全面的な運営支援、CSAが建設・寄贈した小学校を中心に現地が求める物資支援を進めています。

今回の視察では、その課題について公式訪問先で意見交換をすることができました。在ラオス日本国大使館でご挨拶いただいた田坂公使は、先月までタイに赴任していたこともあり「ラオスへの貢献

はタイと比較すると圧倒的にインパクトがある。NGOとして活動し甲斐のある国と言える。ぜひ、ラオスへの支援、とりわけ、子供たちへの教育支援を継続して欲しい」と。また、JILAFバンコク事務所の関口所長には昨年の訪問時にこの課題について投げかけていたこと、CSAについて十分に理解していることもあり、事業内容や規模からも大きく広げずに、ラオスに特化しても良いのではとご教示をいただきました。合わせて、ありのままのラオスの姿やラオス国民の気質について触れていただいたことで課題解決のヒントにもなりました。事務局内でも方向性について議論していきたいと考えます。

北野団長率いる一行は、1月25日早朝、無事に羽田空港に到着しました。約1週間行動を共にしたことにより、各組織の社会貢献・国際貢献活動、あるいは、組合活動全般の在り方や悩みを共感できる仲間を得ることができたのも収穫です。「このメンバーでもう一度集まりたい」実現に向けて検討していきます。 2025.2.17記

